

UICCについて



UICCは、がんコミュニティが連携して、世界のがん負担を軽減し、公平性拡大を促し、世界の医療の開発アジェンダにがん対策を組み入れることを目指して活動している。

UICCは、会議を開催し、能力を高め、がんコミュニティが連携する構想を提議するリーダーとしての役割に専念することによって、世界のがん負担を軽減し、公平性拡大を促し、世界の医療の開発アジェンダにがん対策を組み入れることを目指して活動しています。

UICCは、1933年に設立され、スイスのジュネーブを本拠とする、最も長い歴史と最大の規模を誇る国際がん対策機構です。162か国に1000を超えるメンバーと、56のパートナーを擁し、世界の主ながん学会、保健担当の官庁、治療研究機関、患者グループ、業界リーダーが関与しています。

UICCは長年にわたり、がん対策に関して独立した客観的な見解を表明する機関としての名声を得てきました。また、世界保健機関(WHO)や世界経済フォーラム(WEF)など、影響力の大きな組織において、がん対策が優先事項として取り扱われるように各国政府が対策を講じるよう促しています。

UICCは、国連経済社会理事会(ECOSOC)におけるステータスを活用し、国際がん研究機関(IARC)、国連薬物犯罪事務所

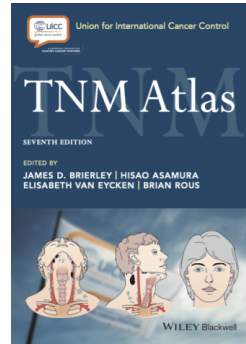
連携することによって、がん対策を成功に導きます

包括的な連携の確立は、UICCが活動し影響力を発揮するための基礎です。だからこそ、がんとの闘いに大きな変化をもたらすし、これを達成させるために、さまざまな利害関係者を連携しています。

連携の相手方には、がん関連の組織、基金、民間企業が含まれ、これらの組織との間で共通の目標に基づき長期的な関係を構築しています。私たちは手を携えて何百万、何千万もの命を救うことを目指し、会議の開催、能力強化、支援という3つの優先分野を重視しています。



TNM



TNM Atlas, 7th edition
The TNM Atlas, 7th Edition, a companion for the TNM Classification, is designed as an aid for the practical application of the TNM classification system by illustrating the T and N categories in clear and easily understandable graphics.

The aim of such a presentation is twofold: to enable all disciplines involved to reach a more standardized understanding and documentation of the anatomic spread of tumours, and to further enhance the dissemination and use of the TNM classification. The 7th edition of the TNM Atlas was released in June 2021.

JJCO



Advancing the cause of UHC in Asia
The University of Tokyo published in the May edition of the Japanese Journal of Clinical Oncology a collection of articles based on the lecture series "Is UHC for cancer in Asia an achievable goal? (link is external)" (Guest Editors: Hideyuki Akaza and Norie Kawahara).
In his Forward, Dr Tetsuo Noda, Chairman of the Japan National Committee for UICC and Director of the Cancer Institute at the Japanese Foundation for Cancer Research, writes: "In order to raise the level of cancer treatment in Asia, we must not only concentrate on the medical characteristics of the disease, but also adopt a more macro perspective that takes into account the social determinants of cancer in Asia, including social structures, culture and economy." Dr Noda further writes that UHC for cancer is an urgent issue, with many Asian countries facing the challenge of ageing populations. These lectures highlight the fact that to achieve UHC for cancer, human resources from a wide range of fields – governments, medical institutions and private sector stakeholders – must combine efforts and find solutions to multiple issues from prevention to treatment.



UICC 日本委員会 Union for International Cancer Control



ワールドキャンサーデーとは、世界全体が一体となって対がん運動に取り組むことを促進するため、2000年(1)の世界がんサミットで採択された(1)の憲章によって毎年2月4日を記念日として定めたものです。UICC本部は2019年から3年間の対がん運動キャンペーンとして「I AM AND I WILL」-私は今、そしてこれから私は-をテーマに打ち出しています。
UICC日本委員会はこの記念日に合わせ、シンポジウムやライトアップイベント等を開催して参りましたが、今年はコロナ禍ということもあり、多くの方々に参加頂くような大規模イベントは自粛し、オンラインによるライトアップ点灯式「LIGHT UP THE WORLD」の開催、並びにワールドキャンサーデーセッション等をオンデマンド配信致しました。メインの東映本社点灯式では、吉永小百合さんとビデオメッセージで坂本龍一さんに登場いただきました。午後6時ちょうどに、全国16か所のライトアップ施設で一斉にスイッチが入られました。世界が1つになってがんという病気のことを思い、考える貴重な時間を共有することができました。そして世界と想いを1つにして、がんに立ち向かう日本の決意を世界に発信する機会となりました。

ワールドキャンサーデー ライトアップおよびセッション動画はこちら



<https://www.worldcancerday.jp/>

UICC ニュースレター 記事の内容はこちら



グローバルリーダーズメッセージ

インターネットで視聴可能です。[ワールドキャンサーデー]で検索してください。
アジア地域のがん医療におけるUHC(ユニバーサルヘルズ・ケア)の実現に向けた政策提言活動をおこなってきたグローバルリーダーたちのメッセージです。



本年も厚生労働省にもご協力をいただき、国際課やがん疾病対策課とも連携して、田村厚生労働大臣にもご協力いただきました。

ワールドキャンサーデー・セッション

がんを取り巻くさまざまな社会課題について、それぞれがその役割を演じてがんとう向き合おう。12のセッションで語り合い、「誰ひとり取り残さないがん医療」のために、未来を切り拓く決意が新たにされました。

- | | | |
|---|--|--|
| 1 交わる(Interacting)
がんを乗り越える力が交わっていく
~患者が活動~コロナの孤立・分断をどう乗り越えるか~
船橋 忠生 (座長) 船橋 忠生 / 小島 麗香 / 土井 希子 / 吉田 久美子
みんなで考えよう① ~AYA世代のがん~ | 2 防ぐ(Preventing)
がんは予防できるのか?
①~どこまで予防についてわかってるのか? これから研究はどう進むのか?~
井本 逸勢 (座長) 高橋 隆 / 伊藤 秀美 / 松尾 寛太郎
みんなで考えよう② ~がんと発症予防~ | 3 防ぐ(Preventing)
がんは予防できるのか?
~女性のがん予防
藤 也寸志 (座長) 田村 恵美子 / 藤井 多美恵 / 町田 洋一 / 三浦 亜希
みんなで考えよう③ ~がんを地域で学ぶ~ |
| 4 考える(Thinking)
大野 真司 (座長) 津田 守男 / 田部 宏 / 矢方 美紀
コロナ禍のがん医療① ~大阪の底力~
松浦 成昭 (座長) 池田 清人 / 若田 知子 / 中谷 健太 / 宮代 勲
がん在宅医療を支える
~病院から地域、住み慣れた家へ~
石谷 邦彦 (座長) 大井 真一 / 大串 祐美子 / 辻 哲夫 / 三宅 智 | 5 考える(Thinking)
清水 研 (座長) 井上 真一郎 / 水瀧 聡子 / 中邑 賢龍
コロナ禍のがん医療② ~コロナ禍をがん医療はどう乗り切るのか?~
土岐 祐一郎 (座長) 若佐 康一郎 / 大西 洋 / 佐野 武 / 松田 智大
私はいま そして これから私は
船橋 忠生 (座長) 成島 出 / 堀江 重郎 | 6 学ぶ(Learning)
がんを地域で学ぶ
~生涯教育としてのがん教育~
田島 和雄 (座長) 加藤 裕子 / 奥野 秀 / 中瀬 一朗 / 横崎 剛
がんと食・栄養
佐谷 秀行 (座長) 中村 丁次 / 服部 幸徳 |
| 7 闘う(Fighting)
コロナ禍のがん医療①
~大阪の底力~
松浦 成昭 (座長) 池田 清人 / 若田 知子 / 中谷 健太 / 宮代 勲 | 8 闘う(Fighting)
コロナ禍のがん医療②
~コロナ禍をがん医療はどう乗り切るのか?~
土岐 祐一郎 (座長) 若佐 康一郎 / 大西 洋 / 佐野 武 / 松田 智大 | 9 闘う(Fighting)
コロナ禍のがん医療③ ~最前線の1年を振り返って~
吉田 和弘 (座長) 大野 真一 / 羽谷 三月 / 鈴木 昭夫 / 二村 孝 / 牧山 昭貴 / 宮崎 龍彦 / 森島 健一 |
| 10 支える(Supporting)
がん在宅医療を支える
~病院から地域、住み慣れた家へ~
石谷 邦彦 (座長) 大井 真一 / 大串 祐美子 / 辻 哲夫 / 三宅 智 | 11 生きる(Living)
私はいま そして これから私は
船橋 忠生 (座長) 成島 出 / 堀江 重郎 | 12 食べる(Eating)
がんと食・栄養
佐谷 秀行 (座長) 中村 丁次 / 服部 幸徳 |

誰ひとり取り残さない がん医療

アジアUHCの実現のためのイノベーションとはなにか?

がん治療が飛躍的に進化を遂げているにも関わらず、低所得および中所得国(LMIC)では、予防、病理、診断、手術、放射線療法、各所へのアクセシビリティが依然として不足しており、特にアジア圏において様々な課題が浮上する中、がん医療のUHCにおいて日本が果たせる役割とは何か、考えるべく、UICC-AROはUICC日本委員会のサポートのもと提言活動をおこなってきた。
COVID-19は、がん医療において多くの問題を浮き彫りにしたが、それらの多くはCOVID-19によって新規に出現したものでなく既存のがん医療ヘルスケア体制が争む課題が危機により顕在化したものも含まれていると考える。診断・治療を日本水準に引きながら、アジアの医療のコストを下げ、質を上げ、アクセシビリティを高めるためには、課題が顕在化したいまこそ、次世代のヘルスケアセッティングの実装を研究しはじめなくてはならない。
こうしたがん医療のProvisionの先進的な在り方をアジアに実装していくこと、そしてそのためにはどのようにして、がん情報基盤を構築すればよいのかという問いは、アジアにおけるがん領域でのUHCに有効であるだけでなく、わが国のがん医療ヘルスケアにも資するものである。この危機を乗り越え、そのさきにあるがん医療とはなにか、それを考えるためにUICCはこし10月のリーダーズサミットのテーマを、「Driving innovation to advance cancer control equitably」としている。
そこでUICC-JAPANは、これに先立ち、癌学会そして癌治療学会において、そもそもこの危機を乗り越え医療のコストを下げ、質をあげ、アクセシビリティをあげていくためのUHCのためのイノベーションはアジアにおいてどこから生まれてくるのか、テクノロジーだけではなく、われわれがどんな世界観をもって、UHCにむきあっていくべきなのか、社会が大きく変容していくといういまこそ考えるべきことである。



UICC 日本委員会

UICC 日本委員会とは

UICC日本委員会 Japan National Committee for UICC (UICC-Japan)は、UICCに加盟している日本の組織が集結し、世界対がん宣言の実現に努力するUICCの支援を目的の一つとして、連携しながら活動している日本の独立組織で、事務局を(公財)がん研究会に置いている。日本の主要ながん専門学会、がんセンター、研究所、研究基金、病院、対がん協会などが参加している。

UICC 日本委員会の活動内容

UICC本部と連携しながら 毎年2月4日のWorld Cancer Dayに各地でシンポジウムを、また日本癌学会や日本癌治療学会においてUICCセッションなどを実施・開催している。
山際-吉田国際がん研究フェロ-シップの運用基金を会員組織と賛助会員の寄付で用意し、UICCに委託して運営している。この事業は1975年以来40年に亘り続けており、既に500人を超える世界の研究者が恩恵を受けており、日本の民間からの継続的貢献として評価されている。UICC-Asia Regional Office (ARO)に活動資金を提供し、その活動を支援している。
各種の委員会を設置し、世界対がん宣言に沿った事業を企画し活動している。



1966年 東京で開催されたUICC世界がん会議(第9回)

UICC 日本委員会加盟組織

- | | | |
|--|---|--|
| 愛知県がんセンター
神奈川県立がんセンター
(公財)がん研究振興財団
国立がん研究センター
(公財)札幌がんセンター
(公財)高松癌研究基金
栃木県立がんセンター
(一社)日本癌治療学会
(特非)日本肺癌学会
(公財)北海道対がん協会 | (一社)アジアがんフォーラム
がん・感染症センター都立駒込病院
(公財)がん集学的治療研究財団
埼玉県立がんセンター
静岡県立静岡がんセンター
千葉県がんセンター
新潟県立がんセンター
(公財)日本対がん協会
(公社)日本婦人科腫瘍学会
三重大学医学部附属病院 | 大阪国際がんセンター
(公財)がん研究会
九州がんセンター
(公財)佐々木研究所
(一社)全国がん患者団体連合会
東京慈恵会医科大学
日本癌学会
(一社)日本乳癌学会
東札幌病院
宮城県がんセンター |
|--|---|--|

【賛助会員】 協和キリン株式会社 (山種-吉田国際奨学金)
(公社)日本放射線腫瘍学会

UICC 日本委員会 2020年度役員

- | | |
|----------------------------------|---|
| 【委員長】 野田 哲生 (がん研究会) | 【UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)】 野田 哲生 (がん研究会) |
| 【幹事】 | 【UICC本部】 |
| 総務 中釜 斉 (国立がん研究センター) | Fellowship 委員 |
| 学術 船橋 忠生 (日本対がん協会) | 中釜 斉 (国立がん研究センター) |
| 財務 吉田 和弘 (岐阜大学大学院医学系研究科) | TNM 委員 浅村 尚生 (東北大学医学部) |
| ARO担当 野田 哲生 (がん研究会) | 【名誉会員】 |
| 予防・疫学領域担当 浜島 信之 (名古屋大学大学院医学系研究科) | 井口 潔 (元がん集学的治療研究財団) |
| 事務局担当 大野 真司 (がん研究会有明病院) | 青木 國男 (元愛知県がんセンター) |
| 【監事】 | 富永 祐民 (元愛知県がんセンター) |
| 増井 徹 (国立精神・神経医療研究センター) | 大島 明 (元大阪府立成人病センター) |
| 池田 徳彦 (東京医科大学) | 武藤徹一郎 (がん研究会) |
| 【専門委員会委員長】 | 北川 知行 (がん研究会) |
| 疫学予防委員会 浜島 信之 (名古屋大学大学院医学系研究科) | 田島 和雄 (元愛知県がんセンター、三重大学) |
| 喫煙対策委員会 望月友美子 (前 日本対がん協会) | 赤座 英之 (元東京大学、筑波大学名誉教授) |
| 患者支援委員会 北川 雄光 (慶応大学医学部) | 【日本委員会事務局(がん研究会内)】 |
| TNM委員会 佐野 武 (がん研究会有明病院) | 神田 浩明 (研究幹事会担当)(埼玉県立がんセンター) |
| 広報委員会 河原 ノリ工 (東京大学東洋文化研究所) | 関本 敏之 (事務委員長兼務) |
| 小児がん委員会 中川原 章 (佐賀国際薬学大学院がん治療財団) | |
| 対がん協会 石田 一郎 (日本対がん協会) | |